



■2月24日(日曜日)に、トキと自然の学習館自主事業

冬の日本海に生息する海鳥や観覧棟『トキみ〜て』でのトキの観察などを通して、自然環境を保全する大切さを学びました。

当日は、曇ひとつない青空で絶好の観察日和になりました。寺泊水族博物館の屋外広場から、寺泊海岸に生息する海鳥をみんなで探しました。



双眼鏡をのぞくと、波消しブロックや岩の上で羽を休めているカモメたちを発見。『ワシカモメ』や『オオセグロカモメ』などたくさんの種類のカモメを見つけることができました。

幼鳥を見つけた子どもは「羽と足の色が親鳥と違うね！」などと興味深げに、親子で話していました。



『ウミネコ』が近くに飛んで来てくれました！子どもたちは自分の目でじっくりと観察できました。



「冬の海鳥観察会」を開催しました。

寺泊水族博物館では、飼育している生き物や飼育環境について、くわしく話を聞きました。

『マゼランペンギン』のプールは、鳥インフルエンザ対策として、周りをネットで囲っているそうです。



アカウミガメは、産卵する砂場の温度が29度以上になるとメスの赤ちゃんが多く生まれることや、温暖化が性別の偏りに大きく影響することなどを学びました。



生き物の命や自然豊かな環境を守るためには、海にゴミを捨てないなど、みんなが考え、協力していかなければならないことを学ぶことができました。

トキと自然の学習館では、長岡野鳥の会から「ハクチョウの子育て」について話を聞きました。



ハクチョウの繁殖地ロシアでは、かつて新潟にも飛来したメスが親となり子育てをしているとのこと。水辺に作られた巣は、親鳥がひと時も巣を空にすることなく、オスとメスが交代で卵を温め続けているそうです。



また、生まれて数か月しか経っていない幼鳥が、越冬のため遠い日本へ飛んでくることを知り、子どもたちは、日本では見ることのできない『ハクチョウ』の巣の写真や厳しい自然環境の中で暮らしていることに驚いていました。



最後に、昨年8月にオープンした観覧棟『トキみ〜て』でトキを間近で観察しました。



解説員から、トキは年明けから春の繁殖期にかけて羽の色を自ら黒く染めることや、エサはドジョウや馬肉を使ったものを与えていて、肉食であることを教えてもらいました。

多くの子どもたちは、トキを初めて見たということで知らないことばかりだったと話していました。



自然界で暮らすトキは、ドジョウのほか、カエルやミミズなどを食べます。今はこういったトキが好むエサを採れる場所が少なくなっています。これから先、野生のトキと共に暮らしていくためには、私たちがどのように自然環境を保全していったらいいか、考えることができました。

たくさんの方々に参加していただき、本当にありがとうございました。

長岡市トキと自然の学習館

長岡市寺泊夏戸 2829 番地

TEL 0258-75-3201

